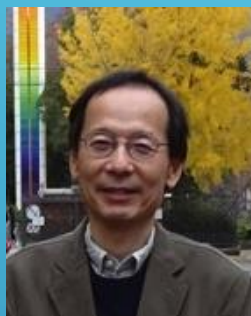


第18回 KITライフサイエンスセミナー

「第二の脳」と呼ばれる消化管-食道神経系の形態の話



演者 **藏本博史**

京都工芸繊維大学大学院・工芸科学研究科
応用生物学系・細胞機能学分野・准教授

日時

6月 27日 (水) 17:00 - 18:00

会場

京都工芸繊維大学 2号館 4階 441セミナー室

対象

教員, 学生, 一般の方

“-Gut Feeling-”とは、「第六感」または「直感」という意味だそうです。日本にも昔から、例えば、「腹を割って話す」、「腹を据える」、「断腸の思い」などの言葉がありますが、この様な表現は単に脳での感じ方を消化管に置き換えただけなのではないでしょうか。否々、実際には脳と腸の間には、お互いに信号をやり取りして密接に関係していることが判ってきているのです。近年ではこの関係を「脳腸相関」と呼び、神経やホルモンを介して、脳が消化管の機能を維持したり、また、逆に消化管からも脳に影響を与えていると考えられています。このセミナーでは、消化管分野においては、胃や腸に比べ注目度の低い、食道の神経系の形態について主にお話し、最後に「脳腸相関」に関しても少し触れてみたいと思います。近年、社会問題にもなっている「逆流性食道炎」はこの相関の不具合に原因があることも判ってきました。

